

平成30年度 保護者懇談会 報告

日 時	平成30年7月3日(火) 午後6時30分から8時まで
場 所	中里中学校
出席人数	(1) 保護者等 5人 (2) 事務局 教育長 学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員
内 容	(1) あいさつ (2) 学校適正配置基本方針の概要について (3) 児童生徒数の将来推計について ()は学級数 (10年後) 中里小 15人(3) 中里中 14人(3) (20年後) 中里小 12人(3) 中里中 10人(3) (4) 意見交換
【(4) 意見交換】	
<p>(意見)</p> <p>中里の取組が誤解されている。学区の学校でなじめなかったら行ってみようとか、問題のある子が行く所という認識を持たれている。「特認」という取組が、変なふうに伝わっている。説明しても理解されない。機会を持って、正しく伝えてほしい。</p> <p>(意見)</p> <p>残念に思っていることは、部活が2つしかない上に、卓球部は3年生が引退すると、団体戦は出られない。個人で試合に出られても、部活動の意味があるのか。吹奏楽部は3年生の引退後は3人しかいない。吹奏楽として成立しない。今後の学年は男子が多いので吹奏楽部には入らないだろう。</p> <p>一人ひとりを見ていただいているが、それでも見落としがあるかもしれないと思いながら指導してほしい。少人数だからいじめがないと決めつけないでほしい。</p> <p>校長、教頭が同時に異動する事態が続いている。PTA活動などもやりにくい。PTAの役員交代と重なると、分からなくなってしまう。</p> <p>(意見)</p> <p>中里に行くとき、周囲から驚かれ、「おかしな子が行く学校だよ」と言われた。地元の学校になじめないと相談したら、学務課に中里を紹介されたと言う人がほとんどだった。学務課はそのように中里を紹介しているんだなと思った。そのようなことから、中里を、地元の学校になじめない子が行く所というように思っている人が多いのだと思っている。</p> <p>中里がいいと思って通わせている。英語教育がよい。週3回も英語塾に通える人はいない。コンスタントにネイティブに会える環境は他にない。幼稚園に行って紹介してほしい。小学1、2年生で、どのようなことをやっているか知ったら、中里に通わせたいと思う人が増えると思う。発音など、低学年で触れることでとても変化する。</p> <p>リーフレットに、中里については個別に検討としている。この個別に検討という具体的</p>	

な内容について聞きたい。

小学校に入るときには、中学校のことまで意識していなかった。最近になって、中里中の魅力が分からない。他の中学との違いや中里中の良さを教えてほしい。

少人数なので、反転学習(*)など実験的なことに取り組んでほしい。他の地域の人たちがおもしろそうだと思うかもしれない。せっかく少人数なのだから、実験的にいろいろやってみてもいいのではないか。

前回の地域懇談会の際、中里も君田小のようになってしまうかもと言っていたが、教育委員会でそのような考えを持っているのか。

(*) 反転学習 (反転授業)

従来の授業形態を反転させたもので、家庭でいわゆる「授業」を、映像教材を用いて予習の形で受講し、学校の授業の時間では通常「宿題」として扱われる演習や学習内容に関わる意見交換などを行うもの。

(メリット)

- ・ 一人ひとりの能力や特性に応じた学びが可能になり、子どもが意欲的に取り取り組める
- ・ 教員が子どもの理解度を確認できる
- ・ 授業での協働的な学習を通じて、自分の考えをまとめ、議論できる能力を身に付けることが期待できる
- ・ 映像教材で繰り返し確認できるため、学習効率が上がる

(注意点)

- ・ 効果を得るためには、保護者が家庭での学習を促し、支える必要がある
- ・ タブレット端末の確保、インターネット回線の整備など家庭の負担が生じる

(「ベネッセ 教育情報サイト」から抜粋)

(意見)

周知の仕方が甘い。JWAYで1回きりでなく、シリーズ化するなどしてPRしてほしい。

バスのコースを増やしてもらえれば、人が集まりやすい。南の人や十王の人は直接来た方が早い。予算はあるだろうが、バスの運行の仕方を考えてほしい。

リーフレットの「皆様のご意見は…」で「小学校は2～3学級、中学校は3～4学級がよい」となっているのに、「学級の数人は少ない方がよい」となっていることに矛盾を感じる。

環境ということ言うと、中学校の教室が暑い。教室の中でも30度を超える。再編もいいが、子どもたちの学習環境を整えることも考えてほしい。エアコンを入れるなど検討してほしい。

中里のことを知っている人はいるだろうが、まずは、選択肢にならなければ来てもらえない。もっと周知の仕方を考えてほしい。

地元の子供が1人、2人になってしまったときに、どのようにケアしてくれるのか。個別に検討するというのであれば、特色ある学校づくりにコンスタントに取り組んでほしい。

(事務局)

先ほど、中学校の魅力という話があったが、校長先生から中学校の魅力を。

(校長)

大規模校での教員経験が長いので、中里での経験は新鮮に感じている。

中学校の活動で良いと思ったのは生徒会活動。活動場面が多く表現力が育つ。いろいろ

な場面で発表の機会があるので、人前での発表力がすばらしい。

部活動については、学校側も何とかしたいと考えている。人が集まってくれないと、合同チームも距離があって難しい。

学校生活の中には、一人ひとりが輝く場面がある。小中一貫校だからこそできることを考えていきたい。

（事務局）

幼稚園に出向いて説明するなど、PRの方法はいろいろ研究したい。コミュニティからもPRの要望が出されている。

（意見）

幼稚園生を小学校の体験イベントに呼ぶなどしてはどうか。公開授業などは、保護者が来にくい。

（教育長）

中里に関する認識については、本意ではない。

たくさんの中では個性が出せないお子さんが、少人数の中であれば活躍の場ができるのではないかと紹介していると思う。そうではないとすれば、説明の仕方を改めなければいけない。反省をしたい。

反転学習については、研究は必要だが、すぐにでも取り組める内容だと思う。全国的には取り組んでいるところはある。部分的に取り入れることはできると思う。

他の地域にとってもプラスになることがある。

（事務局）

小規模校であっても、いじめにつながる芽はある。小規模校の校長の時は、特に女子のグループについては目を配っていた。数の多少ではなく、一人ひとりの子どもを理解するという観点が大事だ。

人事については、自分の経験からも、校長、教頭が同時に異動すると、学校運営上のつながりが難しい。誰が変わっても、学校の良さが継承できるように配慮していきたい。

日立市立の未就学児の2割が公立幼稚園、私立幼稚園が4割、残りが保育園に在籍している。効果的なPR方法を考えていきたい。

（教育長）

施設については、小中一貫を継続するなら、そのように建て替えたい。

その点でも重要なのは、人を呼び込むにはどうしたらいいか。教育からのアプローチ、地域活性からのアプローチ、いろいろ取り組まなければならない。教育だけでどうにかできることではない。

君田小の件は、どのような文脈での発言だったか記憶が曖昧だが、教育を魅力的なものにしていくしかないだろう。

（意見）

私たちより上の世代の人たちは、学校の人数が少ないから、出ていった自分の子どもたちに「帰ってこなくていい」と考える人が多い。自分の子どもは帰ってきてくれたが、間の人がないので、子どもがガクッと減ってしまったと考えている。帰ってきたいと考えている人に帰っておいでと言えるためにも学校の存続が必要。幼稚園から少人数でずっと過ごす高校に行った時のギャップが大きいので、幼稚園で集団を経験し、小学校からじ

じっくり見てもらって外に出すということがいいかなと感じる。中里は水戸も近い。いつでも帰ってきていいよという環境は整えておきたい。

ゼロの学年に人は来ないし、男女の比率も大事。男の子ばかりの所に女の子は入らない。いろいろな人に入ってきてほしい。中里の良い所は9年間ということ。途中から、特に中学からだ（人数が）少なくて戸惑う。幼稚園でPRし、小学1年生から通ってもらえば9年間の良さが分かって卒業できると思う。

（教育長）

いかに中学校を魅力的にするかが大事。小学校は十分に魅力的。中学校で学力を伸ばして進学できるように。

（意見）

選択肢が広がるようにしてほしい。

小学校のPRは熱心にしてきた。チラシの内容が薄っぺらい。中学校についてはあまり書いていない。

（事務局）

幼稚園の保護者向けとすると、中学校まではイメージしにくい面もあって、バランスが難しい。

（意見）

中学校のことも、もっと知らせ、中里は中学校までの長いスパンで見る学校なんだと分かってもらえるように。

（教育長）

子どもの成長は切れ目がない。

（意見）

中里の取り組みを知った上で初めから選び取ってもらえる価値は大きいと思う。地元以外から来ている子どもたちは意欲的なお子さんが多い。地元の子たちが引き上げてもらっていると感じる。

（意見）

途中から来るお子さんの保護者の方は、子どもが学校に来られなくなると、学校とのつながりを持つとしてくれない。特に、中学校から来たお子さんで、学校に来られないという人にそのような傾向がある。せっかく来てくれても、全然知らない人になってしまう。中里に来る条件の中に、PTA活動に参加するということがあったと思うが、親も入り込もうと思わないと子どもも来られない。PTA活動に参加できる人に来てほしい。

（教育長）

気持ちは分かるが、どんな人でも受け止めてくれる中里の懐の深さも魅力。つながることの嬉しさを感じてほしい。来にくくなってしまふのだから、アプローチの仕方を考えていかななくてはならない。

（校長）

学校としても、お子さんや保護者への関わりを何とかしたいと思っている。中里に来て

良かったと感じてほしい。

途中からであっても学校の良さを分かって入って来てくれればありがたい。今まで1人でやっていた子が、友達ができたと喜んでいる。

(意見)

PRの中に卒業生や保護者の声をもっと載せたらいいのではないか。9年間過ごした人や途中からの人、先生の声などを載せたら分かりやすくなるのではないか。卒業生が中学校での経験や子どもの生の声を載せると「行ってみようか」となるのではないか。

(意見)

就学児健診で配られたものを見た。私立の保護者は教育熱心。学区外から中里に通学するのは勇気が要ると思うが、生の声を聞くと感銘を受けると思う。

十王からバスが出れば、十王の人も行きやすい。夏休みなど部活だけ行く人は交通費が負担になる。長期休みのバスについては検討するという事だったので、その後どうなったのだろうか。

(事務局)

バスの件については、本日は回答を持ち合わせていないので、後日、学校を通して回答したい。

(意見)

子どもの数が、20年後に半数になることを考えると、中里の取り組みを他の学校にも生かせるのではないかと思う。先進的なことに取り組んでいただいて、将来の日立の学校の小規模化に生かしてほしい。

(教育長)

教授法などは日々の積み上げが必要なことなので、明日からという訳にはいかないが、試験的に取り組むことはできると思う。

以上

※ 始めと終わりのあいさつと資料の説明は、記録を省略します。